

音の輪・音の和



一般社団法人
兵庫県音楽療法士会

2014年3月発行 No.4

兵庫県音楽療法士会のコンサート活動

一般社団法人兵庫県音楽療法士会 副理事長 宮本裕美

♪ 思いの三本柱

私たち兵庫県音楽療法士会は、思いの三本柱を持って日々の活動を行っています。「一本目・学び続ける」ために研修会や事例研究会を毎月開催し、その研修会の場やホームページの活用などで、情報交換や悩み相談をするなど「二本目・横のつながりを持ち」、「三本目・音楽療法の普及と発展を目指し」コンサート活動などを行っています。

♪ コンサートが開催されるまで

これらの中で、今回はコンサート活動についてお話しします。コンサートが開催されるまでには以下のような道のりを辿ります。

- ①各種団体などからコンサートのご依頼が事務所に入ると直ちに検討します。（諸々の事情でお受けできない場合もあります）
- ②多くの場合、実行委員会を立ち上げ、規模・対象者・コンセプトなど、ご依頼内容に応じたプログラムを考えます。特にご指定がなければ、当会のコンサートは音楽療法の技法を取り入れた“参加型コンサート”です。全体練習の機会確保や広報活動のために、1年から半年前に動き始めます。
- ③実際の練習に入ります。プログラムの各場面ごとにグループが結成され、早ければ全体練習の2ヵ月以上前から練習を繰り返すグループもあります。多い時は80名を越す出演及びスタッフ会員が一堂に会する機会を設けるのは至難の業で、全体練習は3～5回、とても集中した雰囲気の中で行われます。
- ④当日、朝早くから集合し衣装を着てリハーサルを行います。実行委員が事前に下見や打合せを重ねていますが、やはり本番が終わるまでは不測の事態に備えて気は抜けません。

♪ 音楽療法士が行うコンサートとは？

私たちが行うコンサートについて、アンケート結果などから考えてみたいと思います。年齢性別に関係なく参加された方の大半は「また参加したい」「一緒に歌ったり楽器を演奏して楽しかった」「珍しい楽器が多くおもしろかった」



とお答え下さっています。この他には、（各対象者の）好きな曲を知ってくれている、障がいのある方や小さなお子様などは普段コンサートには行けないことが多く、このような機会は本当に嬉しい、などのお声もよく聞かれます。実施側の会員もほとんどが「音楽の中で皆様とふれあえ大変感動した」「音楽の持つ力をあらためて感じた」「参加してよかった」と答えています。また、練習や本番で他の会員のいつもと違う輝きを見ると、色々な得意分野を持ち寄って一つのを創り上げてゆくことの豊かさを感じるという感想も多く聞かれます。これらのことから、私たちのコンサートとは“参加することの喜びを知る”コンサートなのだと考えます。

♪ これからも

音楽療法士は、様々な現場で、様々なニーズにお応えして、日々のセッションを実践しています。その為に幅広い知識や準備が必要で、時間に追われ「ゆっくりと音楽を聴いたり楽しんだりする時間がない」という嘆きをよく耳にします。でも「そこはどうか！」の精神で、音楽＝音を楽しむ場所に己を置きたいものです。音楽の中で磨かれ、音楽を愛しているからこそ、それを療法としてゆかれるのですから。

よく舞台は総合芸術であると言われる。当会の思いの三本柱が全て詰まった総合学習の機会であるコンサート活動を、私たちは、これからも続けて参ります。

皆様、機会がございましたら、どうぞ私たちのコンサートにご参加下さいませ。そして、皆で一緒に喜びを分かち合えたら、と心から願っております。

もくじ

- 兵庫県音楽療法士会のコンサート活動 …… 1
- 東日本大震災復興支援事業 …… 2
- 音楽療法普及事業 …… 3
- 平成25年度 研修会・事例研究会事業 …… 4

- あなたの町のセラピスト …… 5
- 松崎理事長ラジオ生放送に出演 …… 6
- つながるひろがる …… 7
- 音楽療法定着促進事業について …… 7
- 楽器紹介&音楽の豆知識/山口陽雄賞授与式 …… 8

東日本大震災復興支援事業

●第2回 音きずなコンサート

7月20日兵庫県看護協会ハーモニーホールにおいて、兵庫県との共催による東日本大震災復興支援の第2回「音・きずなコンサート」が開催されました。会場に入ると穏やかに流れるピアノの音色がお客様をお迎えします。さあコンサートの始まりです。まずはヘルマンハーブとギターによる『たなばたさま』メロディーが流れ出すと会場から歌声が重なっていきます。思わず立ち上がって指揮を始める女の子。ゆったりとした柔らかな音色に会場が包まれていきました。楽器体験コーナーでは「やりたい人！」の声に「ハイ！」とたくさんの声があがります。楽器に触れるその手からはワクワク、ドキドキが伝わってきます。「私も触りたいんですけど?」と遠慮がちに手をあげた少女の女性は、ヘルマンハーブを奏でて少女のような笑顔に！次にピンクのドレスを着た白鳥(?)が会場の人々を南の島へと誘って行きます。登場したカメハメハ大王と一緒に「カメハメハ！」と声を合わせて気分は最高！席でうずうずしていた男の子は、舞台の前へと飛び出していきました。次に流れてきたのは『いつも何度でも』柔らかなトーンチャイムの奏でるハーモニーはなんと心地よいこと。



セラピスト達の“笑顔”

●聞きたい 伝えたい なんでも話し隊「集い」 “みんなdeコンサート” 杉浦 昭代 会員

4月28日神戸市垂水区の旧グッゲンハイム邸で、東日本大震災の影響で関西へお越しの方を対象とした兵庫県司法書士会主催の「集い」において、参加型のコンサートを行いました。この「集い」は情報共有等を目的として、参加者同士が語り合い、交流を深めるために平成24年より継続的に開催されています。コンサートでは、幅広い年代の皆様楽しんでいただけるように選曲を行いました。参加型の活動では、押すと音の出る動物マスコット、鈴、太鼓等をお配りして曲に合わせて音を鳴らしたり、懐かしい歌やヘルマンハーブとギターでの演奏を聴いていただきました。ユーモラスに楽器を鳴らす合奏では大人の方

の笑い声も聞こえ、会場は和んだ雰囲気となりました。復興支援ソング『花は咲く』も全員で歌いました。コンサート後は、大人の方は交流会や司法書士、臨床心理士によるなんでも相談会に参加され、お子様達は庭で当会の会員含む保育スタッフ(神戸市ゴミ分別キャラクターワケトンデザインイラストレーター山崎秀昭氏、保育士)と一緒に自由に絵を書いたり、庭で楽しく遊んだ後は皆で温かいお茶とケーキをいただきました。晴天の春の午後に、素敵な庭のある洋館での“みんなdeコンサート” 穏やかなひと時をお過ごしいただき「集い」での交流をさらに深められたのではないのでしょうか。

●被災地訪問 外山 佳子 会員

今年度も兵庫県からの補助を受け、9月と10月の2回にわたり福島県南相馬市を訪問しました。宮城、岩手と比べると復興の歩みが遅く、先の見えない中で悩みながら生活されている福島への訪問でしたが、南相馬市教育委員会や楽器運搬を手伝って下さった運転手の方ほか、多くの方のご支援に支えられて無事に終えることが出来ました事を感謝いたします。

今回の訪問でのセッションは幼稚園、保育園、障がい者施設



からだを動かしてリフレッシュ!

で行いました。震災前に比べ人口が3分の2に減ってしまいましたが、除染が進み、避難していた子どもたちも少しずつもどっていました。『あまちゃん』テーマ曲のイントロで子ども達の表情がパッと明るくなって大爆笑、そのエネルギーに演奏する側がのせられました。その後用意した楽器をみんなに選んでもらい再び大合奏になりました。あらためて『あまちゃん』の人氣と音楽のもつ力を痛感しました。この子どもたちの忘れられない曲のひとつになるでしょう。

障がい者施設では職員さんが積極的に音楽を取り入れており、オカリナ、篠笛などの演奏も入り、日頃歌っている『上を向いて歩こう』『涙そうそう』、震災後福島で生まれた『負けないぞ』の歌の披露があり、その実践方法等についても意見を求められました。

「また来てね、練習しておくから」「また、お願いします」などたくさんのうれしい言葉をいただきました。この訪問を通じて福島の実情の一端を見せてもらい、皆さんと少しは近づけたと思います。今後もできる支援があればと考えています。

●あしたの集い 古川 和香子 会員

『あしたの集い』は、兵庫県臨床心理士会とTKサポート(東北関東大震災の被災者を支援する市民の集い)が主催で、隔月に神戸市長田区の『エコールKOBE』などで行われています。6月は会下山公園での野外活動で23組の親子が参加しました。

親御さんが相談などを行っている間、子供達はボランティアスタッフと一緒に、ハンモックに揺られたり、大きなシャボン玉を作ったり、木工工作で汽車を作ったりと普段出来ないような遊びを経験しました。スタッフは、臨床心理士・保育士・司法書士・音楽療法士などで、それぞれが専門性を活かしながらサポートしています。この日は音楽のセッションも無く、体力勝負でしたが、はじけるような笑顔の子供達と、それをみつめる親御さんの優しい表情にふれさせていただき、スタッフとしてやりがいを感じる一日となりました。



クリスマス会での演奏

音楽療法普及事業

●神戸ハーバーライオンズクラブ主催 第5回ハートフルコンサート

11月4日、兵庫県中央労働センター大ホールにて、障がいのある方々を対象に神戸ハーバーライオンズクラブ主催のコンサートが開催されました。[笑顔で元気]をテーマに、オープニングは『パロック・ハウダウン』で打楽器を鳴らしながら会場を音楽療法士達が進行しました。『どんぐりきのおいも』では身体活動を会場一体となって行い、オーボエによる『風笛』や『となりのトトロ』(ヴァイオリンも加わり)の鑑賞をし『ヘビーローテーション』と『ラ・バンバ』(参加者はエッグマラカスで参加)の楽器活動を行い、最後は全員で『ともだちになるために』を歌いながら「きみときみと」でお互いに手合わせをしました。最後にアンコールで『ラ・バンバ』の演奏を始めると、参加された方が次々舞台上に集まり療法士達と一緒に踊り、会場に居る皆が一体となり「笑顔」になってコンサートを終了しました。



笑顔あふれる楽器演奏とダンス

●神戸介護老人保健施設協会主催『訪問コンサート』

当会は、神戸介護老人保健施設協会主催によるコンサートを平成15年から20年の間に、ポートピアホテルで計5回させていただきました。21年度からは音楽療法士が施設へ向く「訪問コンサート」に形を変えることとなり訪問施設は10ヶ所、1施設につき派遣療法士は3~5名、1時間程度の内容でコンサートを行いました。22年度からは協会より訪問施設数増の依頼で15施設となり、23年度は21施設、24年度は17施設で実施し、本年25年度より申込み施設の枠がなくなり、16施設実施しました。

コンサートを実施した施設からは、「向うくのは移動が大変だったので訪問になり嬉しい」「生演奏の伴奏や色々な楽器を使うことができて良かった」「看取りの段階の人でも開眼され、口元が動いていた」「歌っている表情が普段と違って」「どの集まりでも必ず大声を出し途中退室したり動きまわるような人が、歌ったり楽器演奏も楽しそうにしていた。あんな表情は

初めて見た」「認知症の人があんなにそろって楽器演奏出来ると思わなかった」等驚きの声を多く頂いております。

音楽療法の視点を持ったコンサートに参加していただくことは、施設様に音楽療法を理解していただき、音楽療法の普及や発展につながることであります。当会や音楽療法士にとっても大変有難いことだと感じております。これからもこの機会を大切にさせていただきます。と思います。



●神戸市老人福祉施設連盟主催『ろうごの日のつどい』 ~高齢者の元気は若者の元気、社会の元気~

6月5日に神戸文化ホール・中ホールにて『ろうごの日のつどい』が開催されました。プログラムの一つとして“音楽療法士による参加型のコンサート”で約1時間、様々な種類の音楽で参加させていただきました。超高齢化社会の到来~圧倒的多数となる高齢者、圧倒的少数となる若者。6月5日=ろうごの日は、今後、高齢者や若者が何を考え、どのような役割を担うべきかについて考えていただく日として平成20年に神戸市老人福祉施設連盟によって設定されました。

コンサートのテーマは「いつまでも、あなたのそばに音楽を~心と体にやさしい響き」。和太鼓、リラックス体操、ギター・ハーブによる映画音楽、ラテン音楽と打楽器演奏、トーンチャ

イム、合唱などを演奏しました。老後の生活の中に音楽を取り入れていただく提案として、客席に座ったままでストレッチをしたり小さな打楽器を鳴らしたり、歌唱したりなど、客席の皆様にも演奏に参加していただくと同時に、実際の音楽療法活動の現場の写真や映像から、音楽がもたらす良い効果も知っていただきました。

当日の客席は満席。コンサート終了後のアンケートの結果では、95%以上の方から「大変よかった」「よかった」との評価をいただきました。私たち音楽療法士も客席からたくさんの拍手と笑顔をいただき、非常に有意義なコンサートとなりました。

平成25年度 研修会・事例研究会事業

当会は音楽療法の実施者の技術向上及び育成に資するために月1度、研修会・事例研究会を行っています。

4月・研修会

樋口 純一郎氏
(臨床心理士・兵庫県臨床心理士会理事)
講義「災害後の心のケアについて」

3月・公開研修会*

生野 里花氏
(東海大学講師・米国音楽療法協会認定音楽療法士・日本音楽療法学会認定音楽療法士)
講義「音楽療法のプロセスを知ること
～臨床のふりかえりと研究の方法について～」

5月・公開研修会

岡崎 香奈氏
(芸術学士・英国公認音楽療法士・日本音楽療法学会認定音楽療法士・東北音楽療法推進プロジェクト顧問)
講義「音楽療法士の専門性を高める」

6月・公開研修会*

司馬 良一氏
(総合リハビリテーションセンター特命参事・整形外科医師・当会監事)
講義「医療の中での音楽療法と音楽療法士の資質」

1月・研修会

鈴木 暁子氏
(東加古川病院音楽療法士・大阪保健医療大学講師・臨床心理士・日本音楽療法学会近畿支部副支部長)
講義「トラウマと音楽 ～震災後の経験から～」
特別企画パネルディスカッション
「兵庫県音楽療法士会の災害支援の今後を考える」
～その時音楽療法士として何ができるのか～

7月・事例研究会

小原 依子氏
(神戸女子大学准教授・日本音楽療法学会認定音楽療法士・臨床心理士)
講義「思春期・青年期の発達課題と心理的問題」及び事例研究

8月・公開研修会*

山根 寛氏
(京都大学大学院医学研究科教授・作業療法士)
講義「音楽療法における活動分析と効果判定」

12月・事例研究会

後藤 浩子氏
(大阪音楽大学講師・臨床心理士・日本音楽療法学会認定音楽療法士)
講義「メンタルヘルスと音楽」及び事例研究

11月・地区研修会

A地区「セッションいろいろ相談会」
B地区「絵画セラピーの体験」
C地区「現場で学んだ言葉」
D地区「ギター基礎講座」

9月・事例研究会

糟谷 由香氏
(くらしき作陽大学音楽学部講師・米国公認音楽療法士・日本音楽療法学会認定音楽療法士)
講義「自閉症スペクトラム障害児の注意機能の特徴と音楽療法」
～文献検討から臨床応用へ～及び事例研究

10月・公開研修会*

齋藤 考由氏
(医療法人 篤の会 田中病院副院長・精神科医師)
講義「「治療」に「音楽」を用いる必要があるのか？」
～精神科臨床における「音声」の意味をめぐって～

*公開研修会は日本音楽療法学会の認定番号を取得する予定です。
開催の告知は当会ホームページでご案内しています。
(ホームページのURLは最終ページに掲載しております)



研修会



地区研修会

速報

●『畑崎記念ファッショナブルエイジング賞受賞』

当会は、日頃の活動の功績を讃えられ公益財団法人畑崎財団より『畑崎記念ファッショナブルエイジング賞』を受賞致しました。この賞は、健康づくり・知的活動・社会奉仕活動の3分野で地域に貢献する個人及び団体を表彰するものであります。授賞式の様子、詳細については次号に掲載する予定です。

あなたの町のセラピスト

セラピスト 福井 圭子さん (たつの市在住)

西播地区の第一人者、福井圭子さんは、この地区で数々の音楽療法の可能性を広げてきました。今でも、精力的に講習会に参加し勉強を怠りません。後輩たちには自主性を大切に、自分で気付くことの大切さを教えています。

♪音楽療法との出会い

地元で開設された障がい者福祉施設の行事に、ママさんコーラスとして出演したのをきっかけに、利用者さんの音楽活動を支援してきました(1989年～)。その5～6年後「音楽療法」について見聞きするようになり、1998年兵庫県のシンポジウムに誘われて音楽療法士の養成講座を知り、本格的に学ぶようになりました。

♪音楽療法歴

学生時代から障がい児学級や中学校卒業後の人たちを支える「なすな学級」の活動を手伝い、教員としても特殊学級の副担任としてその教育について先輩から多くのことを学ぶ機会がありました。

現在は、障がい児の個人セッション、支援学校(肢体不自由)、障がい者支援施設、特養等で実践しています。

♪経験は宝もの

兵庫県音楽療法士会の中では、最高齢の私ですが、子育てをしながら「子どもの本の学校」や「家庭文庫」、コーラスや「歩こう会」等どれも20数年～35年余り楽しみながら遊び心を持って続けてきました。そこから得た人との繋がりやいつの間にか身についた事柄が、50歳を過ぎて関わった音楽療法の実践や考え方に活かされ、ヒントになったり、セッション中にもひらめきとして助けられたりしています。苦難や寄り道も無駄はないものだと思っています。

♪最近のこと

2013年11月に、中西播地区の障がい者施設が集まって「ばんたんゆうあい文化祭」が姫路市で開催され、22回目の出演に関わってきました。ここでも音楽の持つ社会性や音楽療法士の存在を感じる場面が見られました。



セラピスト 野田 尚史さん (尼崎市在住)



女性会員の多い中で、いつもムードメーカーとして会を盛り上げてくれる野田さん。きっと野田さんが繰り広げる音楽療法も楽しくパワフルな時間なのでしょう。コンサートの企画やリーダーとしても活躍されたり、広報部員としても、いつも積極的に活動されています。

♪音楽療法に出会ったきっかけ

大学4年の時です。たまたま新聞をみていると「音楽療法」という文字が目にとまりました。その頃、就職については何も考えておらず好きな音楽で仕事が出来たら！と思いきやすぐに学べる所を捜しました。

♪音楽療法歴

京都で音楽療法を学び、その後特別養護老人ホームに

就職。音楽療法を実践後、さらに力を伸ばしたいと感じ、兵庫県音楽療法士の養成講座にて資格を取得し、現在はフリーで兵庫県下の様々な施設で音楽療法を実施しています。

♪県の養成講座を受けていた頃のこと

男性はほとんどおらず、周りは女性ばかりでした。しかし自然と周りの仲間と打ち解けていき、実習など仲間と頑張っけていくことが出来ました。しかし、講義でも音楽療法士もまだまだ女性が多い仕事、男性はなかなか難しいのかなと痛感します。

♪セッションで大切にしている事

主に高齢者を対象にしています。施設では女性が多いので、そこでは男性は特に喜ばれます。音楽を楽しみ、笑顔になり、そして笑ってほしいです。面白い話や、時には物真似も入れたりして、来ていただく前よりも素敵な表情になっていただく事を心がけています。

セラピスト 富士 陵子さん (神戸市西区在住)

精神科病院・常勤音楽療法士。患者様の日常生活や社会復帰をめざして真摯に向き合う富士さん。勉強会を開き後輩への後進の指導も積極的に行っておられます。

♪音楽療法に出会ったきっかけ

大学生の頃から音楽療法に興味があり、日本音楽療法学会等が主催する講習会などに参加して自分なりに勉強しようと努めていました。そうするうちに精神科領域に音楽療法が深く関わっている事を知りましたが、到底私が携われるような領域ではないとあきらめかけていた所に精神科病院で音楽のプログラムをして欲しいという依頼を受けました。

そこで、基礎から音楽療法の勉強をしたいと考え兵庫県音楽療法士養成講座の受講に至りました。

♪音楽療法歴など

前述しました33床の精神科病院で週1回のペースで約6年間、歌唱やリトミックを中心とした活動を行っていました。現在は、370床の精神科病院で主に女性療養病棟や高

齢者病棟を中心に、作業療法室での歌唱や器楽を用いたグループ・プログラム、病棟作業療法での音楽プログラム(歌唱、器楽合奏、のど自慢、コンサート)個人音楽療法、病棟での夕焼けコンサートなどに携わっています。

♪セッションで大切にしていること

しっかりとした治療構造のもとに、治療目的に即した内容で行うことです。そして、自分のしている事を他職種のスタッフに説明できるようにしておくことや、必要な情報交換(患者様の病状や体調の変化など)を大切にしています。作業療法スタッフや看護師に話や意見を聞き、カルテで患者様の状態(診察時や日中の過ごし方、薬の種類等)を知る事は、セッションの目的や手法を決める上で大変重要だと感じています。後は、患者様がどのような状態であっても真摯な態度でしっかりと向き合っていく事です。



松崎理事長ラジオ生放送に出演

2013年5月24日、ラジオ関西「原田伸郎！のびのび金曜日」に松崎理事長が出演しました。この番組は毎週金曜日に生放送されていますが、今回は番組内の「ヤマシタハートフルタイム・すこやか介護」のコーナーに出演。司会の原田伸郎氏とのやりとりを再現いたしました。

原田 今日はですね、一般社団法人兵庫県音楽療法士会、理事長の松崎聡子さんにお越し頂きました。松崎さんこんにちは。

松崎 こんにちは。よろしくお願いたします。

原田 松崎さんにですね「音楽療法」についてお話を訊こうと思うのですが「音楽療法」というのは、音楽を聞いてもらって何かを感じてもらおうということなんですか？どんな療法なんですか？

松崎 聴いて頂くだけではなくて、一緒に楽器を演奏していただくこともいたしますし、音楽に合わせて身体を動かしたりなどもします。音楽が持っている力を利用して、心に何か問題を抱えていらっしゃる方や身体に何か不調を感じている方に対して働きかけて改善されるというのが、音楽療法と言われているんです。

原田 どんな音楽を取り入れているんですか？

松崎 高齢者の方でしたら、よく唱歌や童謡とか懐かしい昭和歌謡などですと、民謡、演歌などを使ったりしています。特にこれだけでなくはいけないということもなく、いろいろなジャンルの曲を使わせて頂いています。ジャズやラテンなど幅広いジャンルの曲を取り入れたりしますね。

原田&MC ジャズなんかも？

松崎 そういう曲もお好きな方がいらっしゃいますので。

MC そういう音楽って楽しいから自然と身体が動いたりしますもんね～

原田 そう言えば、音楽って僕らも元気がないときに、音楽聴いて、「元気出てきたなあ～」ってということありますね、それと同じですよ？

松崎 音楽を聴くと気持ちが高揚したり、反対に気持ちが落ち着いたり、音楽の持つエネルギーで心と身体が変わるということは、皆さんご体験があると思うんですけど。

原田 僕はまたクラシックが多いのかなと思っていましたよ。



松崎 もちろん、クラシックも現場で使うこともありますが、多いというわけではなくて、いろいろなジャンルの曲を使いますね。

原田 自分の好きなジャンルの音楽を使うってことですね。

松崎 そうですね～

原田 「どんな音楽が好きですか？」ってきいたりするんですか？

松崎 はい、例えば「〇〇の歌が好きです」と言われたら、それを皆さんで歌ったりして、そこの歌詞の中にある例えばお花だったり、風景だったり、そういうものから話が広がっていくということもありまして、音楽がきっかけになってその方の“ひととなり”が見えてくるということもあります。ですから、音楽をただ一緒に楽しむというだけではなくて、その方に焦点を当てるといったようなことも音楽療法ではよくおこないます。

原田 要介護の方とか、寝たきりの方とか、自宅でそういう音楽療法を取り入れることはできるのでしょうか？

松崎 できると思います。お好きな音楽とか歌をお尋ねして一緒に歌うとか、寝たきりの方でしたらその方の呼吸を覗いていただいて、その方の呼吸に合わせて歌うとか、そうすると、聴覚は最期まで残る感覚だと言われているので、聴こえているかどうかこちらからはわからない場合でも耳に届いている場合があるんですね。その方の呼吸に合わせて歌って差し上げるとか、またギターなどをつま弾くとか。

原田 楽器を！？

松崎 はい、そういうアプローチをされている方もいらっしゃいます。

MC 実際に生音を聴くとね～、私たちでもCDで聴くのとコンサートで聴くのと違いますからね。

松崎 そうですね～ライブ感と言いますが、その方の為だけにオーダーメイドされた音楽というのが、やはりCDとは違うと私は思います。

原田 介護の必要な方が好きな歌を家族の方が耳元で歌ってあげるってのもいいんでしょうね～

松崎 いいと思います。おそらく、介護疲れされているご家族にとっても、その時間が癒しの時間になると思います。我々がおこなっていることは、音楽で何か治そうということだけではなくて、その方を尊重する、敬うという時間にもなっていますので、寝たきりの方でもその方のためにこの時間を共有しているという豊かな時間になると思います。

原田 今日は、一般社団法人兵庫県音楽療法士会理事長の松崎聡子さんにお話しをお伺いしました。

松崎 ありがとうございました。

つながる♪ ひろがる

神戸ハーバーライオンズクラブ
会長 桂田 秀子



今回、お言葉をいただいたのは神戸ハーバーライオンズクラブ会長の桂田秀子様です。当会にハートフルコンサートの出演依頼を頂いてから早いもので5年の月日が流れております。これからも社会貢献の場で皆様喜んでいただける活動を共に研鑽して参りたいと思います。

音楽療法士会の方々との出会う御縁が出来ましたきっかけは、当クラブの20周年を記念して、このアクティビティを始める事となった事です。対象といたしまして青少年（障がい児）の方々が、単に演奏を聞くだけではなく、障がい児の方々の体と心のケアを目的として、参加者が歌って体を動かせるコンサートを企画いたしました。

今年第5回目のハートフルコンサートを開催させて頂くこ

とができましたのは音楽療法士の皆様にご協力を頂くことができたからでございます。本当にありがとうございます。感謝の気持ちで一杯です。

療法士さんたちの音楽が流れ始めると、会場の参加者が知らず知らずの内に音楽に合わせて指でリズムをとったり、体でリズムを合わせたりと自然に音楽の世界に引き込まれている様子に目頭が熱くなってしまいました。本当に音楽は心を豊かに、元気に、笑顔が増えるようにしてくれると、すばらしい力だと改めて感じさせられました。

これからも長いお付き合いをさせて頂ければ嬉しく存じます。

今後も音楽療法士会の益々のご活躍とご発展を祈念いたしまして、心からありがとうございますとさせていただきます。

音楽療法定着促進事業について

前号まで、県から補助を受けて、音楽療法の普及・定着・促進のためにこの事業を行ってきたことをお伝えしてきました。音楽療法を取り入れようとする医療・福祉・教育等の施設に対し、音楽療法の実施経費の一部を補助する制度で、現在も継続して行われています（対象期間概ね3ヶ月以上1年間、実施回数40回以内）。今年度の利用施設は、63施設です。

今回も、当会会員の井上恭子コーディネーターにインタビューをしました。

Q1. 申し出のあった施設と音楽療法士をどのようにマッチングさせているのでしょうか？

A. 交通費は別途施設側負担となりますので、まずは施設の負担を軽減するためなるべく距離の近い療法士を探します。また、施設側の希望・領域、療法士の稼働状況等を考慮して、療法士をマッチングさせています。

Q2. 初めて音楽療法を取り入れようとしている施設側には、期待と不安が入り混じっていると思われませんか？ それに対してどのように対応しておられるのでしょうか？

A. 音楽療法について、興味や関心を抱いて連絡をしてくださいますので、「まずは一度お試しセッションはいかがですか？」とご案内しています。中には、「一度音楽療法の講座を聞いたことがあります。」と言われる施設もあります。音楽療法を見る機会が増えていていると思いますが、対象者によって音楽療法のセッション内容は変わります。同じ曲でも、対象者の体調やその日の天候等により受けとめ方が違いますし、また、目的によって用い方の違いや療法士の個性によっても印象が変わってきます。まずはお試しセッションを受けていただき、ご検討していただいております。

Q3. 施設側の希望はどのように取り入れられるのでしょうか？

A. それぞれご事情や条件が違いますので、まず、対象者、

施設側のニーズをお聞きし、それに沿えるべくセッションが行われるように担当療法士に伝えていきます。ですから、遠慮なくご希望をお伝えください。

Q4. セッションを行うに当たって施設側が用意することはありますか？

A. まずは、セッションを行う部屋の確保をお願いします。また、お持ちの楽器がありましたら、使わせていただくこともあるかと思いますが、楽器がなくても、療法士が持参するなどしてセッションを行います。また続けていく中で、楽器の購入などお考えいただけましたら嬉しいですよ。

Q5. 助成期間が終わって継続している施設はどれくらいですか？

A. 約90%は継続されています。継続できなくなった事情は、施設によって様々ですが、そのような時は、一度コーディネーターにご相談ください。

Q6. コーディネーターとして、うれしかったことは？

A. 施設側が望む療法士を紹介できたことと実感できたことです。

Q7. 最後に、コーディネーターとしてひとこと

A. 様々な事情で施設側も療法士も継続できないことが生じることがあります。そういう時は、一度コーディネーターにお声をかけてください。また、些細なこと、言いにくいことでもご相談ください。一緒に考えましょう。

音楽療法は、音楽を使って、健康の保持増進・QOLの向上を目指す等、さまざまな目的を持って行われます。そして、セッションは人と人の出会いの場であり、対象者や、施設の職員、そしてご家族とのよい関係が築かれて、はじめて音楽療法が成り立つのだと感じています。

音楽療法に関してのご質問・ご相談がございましたら、いつでもご連絡ください。お待ちしております。

楽器紹介



&

音楽の豆知識

♪ 楽器紹介：音つみき



鉄琴みたい！でも ほら
1音1音バラバラになってるよ



1音1音の音板にそれぞれ独立した共鳴箱がついた楽器。バチで叩くと神秘的な美しい音が響きます。この楽器は1音1

音が独立している為、音階(ドレミファソラシド)のように低い音から高い音へと並べる以外にも、バラバラにしたりして、自由に組み合わせて使うこともできます。また、ペンタトニック(五音音階)から七音音階(例えばドレミファソラシドの7つの音)まで自由に組み合わせて使用でき、小さなお子さんから大人まで幅広く楽しめる楽器です。



♪ 五音音階〈ヨナ抜き音階〉

一般的な音階(ドレミファソラシド)の中から5つの音のみを使用する音階のことをいい、ペンタトニックとも呼ばれています。代表的な音階は(ドレミソラ)の〈五音音階〉です。日本の民謡や演歌にもこの〈五音音階〉が使われており、日本では〈ヨナ抜き音階〉とも呼ばれています。他にも〈五音音階〉は色々な分類に分けられますが、今回は〈ヨナ抜き音階〉について紹介します。

〈ヨナ抜き音階〉とは日本固有の音階です。音階のドから数えて4番目のファと7番目のシを抜いた音階(ドレミソラ)であることから、西洋音楽関係者に〈ヨナ抜き音階〉と名付けられました。また、ピアノなどにおける黒鍵部分の5つの音も〈ヨナ抜き音階〉になっています。この音階が使用されている代表的な曲として、『木曾節』や『北国の春』、最近の曲では『箱根八里の半次郎』などがあります。

日本で『故郷の空』で知られているスコットランド民謡もこの音階が使用されています。しかし、『故郷』などの文部省唱歌は西洋音楽の理論で作られている為、〈ヨナ抜き音階〉ではありません。

第二回山口陽雄賞授与式

10月27日に第2回山口陽雄賞授与式が挙行されました。この賞は音楽療法の普及発展と音楽療法士の士気向上を図ることを目的として、当会顧問である山口陽雄氏(医療法人社団向陽会理事長)によって設立されました。審査委員の有本雅子氏(神戸介護老人保健施設協会会長)により「今回の審査対象者4名。いずれも多くの施設で活躍し、地域での音楽療法の裾野を広げるなど多岐にわたる活動をされており選考に大変苦慮したが、前述のような活動に加え、音楽療法士会の運営にも責任を負って音楽療法の普及活動にも尽力された北山紀子氏に受賞して頂くことに決定した。」と、審査委員長・阿部恩氏(頌栄短期大学学長)の審査講評が読み上げられました。

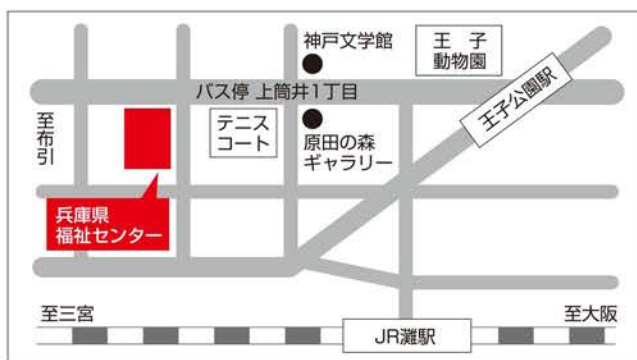
続いて山口直子氏(医療法人社団向陽会理事)から賞状並びに副賞20万円が贈られると、北山氏は「栄えある賞を賜り、身の引き締まる思いでいっぱいです。音楽療法士を心から大激励して下さい山口先生に心より感謝申し上げます。今日の日を私の原点の日とし、新たな気持ちで励んで参ります。」と謝辞を述べられました。



兵庫県音楽療法士会事務所は《兵庫県福祉センター6F》です



JR灘駅・阪急王子公園駅下車
徒歩約10分
神戸市バス(90・92系統)
上筒井1丁目バス停下車すぐ



兵庫県音楽療法士会では以下のURLのホームページを運営しております。音楽療法に関することはもちろんのこと、会の活動内容や公開研修会の案内などをご覧いただくことができます。他に兵庫県の名所を音楽と共に伝えるページや音遊びのページもあります。音楽療法で使う楽器の紹介も充実させたいと思っております。是非HPにもおいでください。http://hmta2.net/ (IT担当 今野)

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター6F 一般社団法人兵庫県音楽療法士会事務局
TEL・FAX (078) 261-9601 E-mail : hmta_02@ybb.ne.jp

編集後記

音楽療法の普及・啓発から歩みを始めた私たちの会も、一般社団法人となり2年の時が過ぎました。定着促進事業や東日本大震災復興支援事業からも見えますように、地域・社会貢献活動が広がりつながらる今、会員一人ひとりが輝ける対象者様の未来の為に、感性を研ぎ澄まして日々の活動にあたる所存です。この広報誌の発行にご協力頂きました皆さまに心より感謝申し上げます。(広報部)